



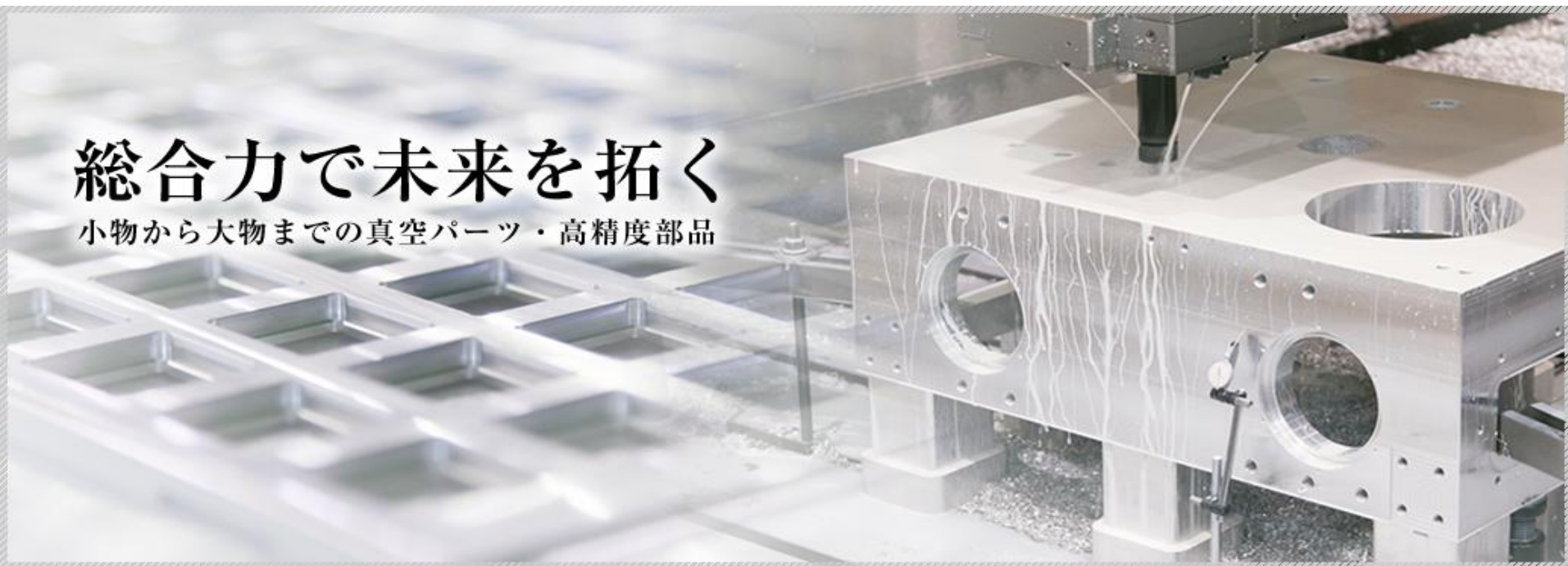
東証マザーズ(TSE Mothers):6264

株式会社マルマエ
平成28年8月期 決算説明会

平成28年10月14日
東京国際フォーラム G407号

総合力で未来を拓く

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品



PL分析

PL

	平成27年8月期 累計期間		平成28年8月期 累計期間		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
受注高	2,362	—	2,119	—	△10.3
受注残高	443	—	355	—	△19.7
売上高	2,124	100.0	2,242	100.0	5.6
売上原価	1,468	69.1	1,495	66.7	1.8
売上総利益	655	30.9	747	33.3	14.0
販売管理費	205	9.7	258	11.5	25.9
営業利益	450	21.2	488	21.8	8.5
経常利益	435	20.5	458	20.4	5.1
特別損益	14	0.7	92	4.1	553.4
当期純利益	559	26.3	363	16.2	△35.0
EPS (円)	106.32	—	69.00	—	△35.1
EBITDA	565	26.6	644	28.7	13.9

Point

①受注状況

- 半導体分野：1,269百万円
(対前年同期：2.7%増)
- FPD分野：828百万円
(対前年同期：9.3%増)
- その他分野：21百万円
(対前年同期：94.1%減)

②売上高

- 対前年同期5.6%の増加
- ※分野別の詳細は次頁

③売上原価・売上総利益

- 材料費：28百万円減
(対前年同期：7.2%減)
- 労務費：55百万円増
(対前年同期：12.2%増)
- 外注加工費：74百万円減
(対前年同期：21.1%減)

④営業利益

- 販管費は研究開発費と人件費の増加

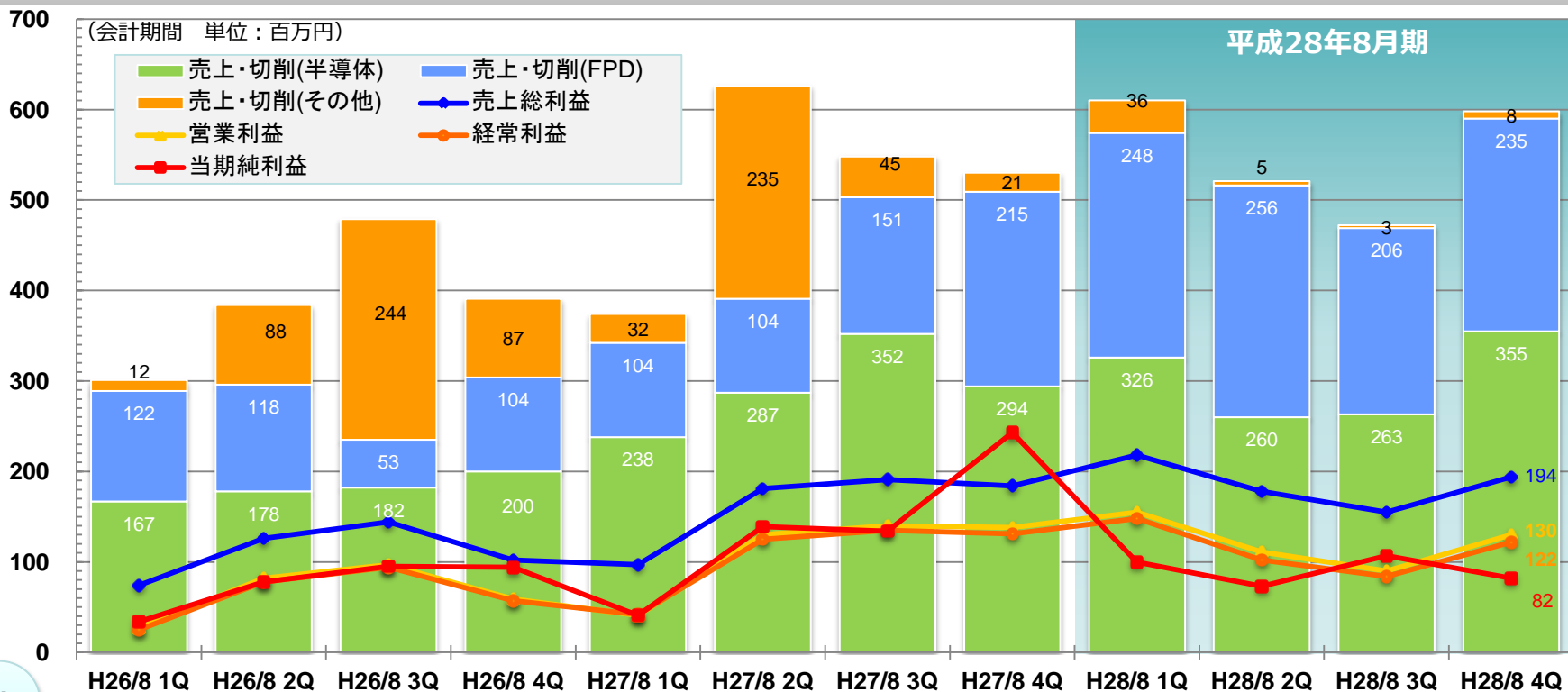
⑤営業外収益/費用・特別利益/損失

- 支払利息：24百万円、補助金：87百万円
- 法人税等：186百万円

1.決算概要



四半期業績の推移



Point

①売上高は、FPD分野が大幅増加（数値は累計期間）

■半導体分野：1,205百万円（対前年同期：2.8%増）

- 顧客内におけるシェア拡大と生産設備の増強、マルマエ生産方式の推進による競争力強化で堅調に推移

■FPD分野：947百万円（対前年同期：64.6%増）

- 社内生産体制の見直しと新規部品の受注拡大

■その他分野：53百万円（対前年同期：83.9%減）

②損益面では売上高の増加と生産性向上で順調

- 減価償却費は増加しながらも売上高増加と生産体制の強化により営業利益は前年を上回る
- 当期純利益は、税効果会計における繰延税金資産の減少を反映

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

1.決算概要

B/S分析

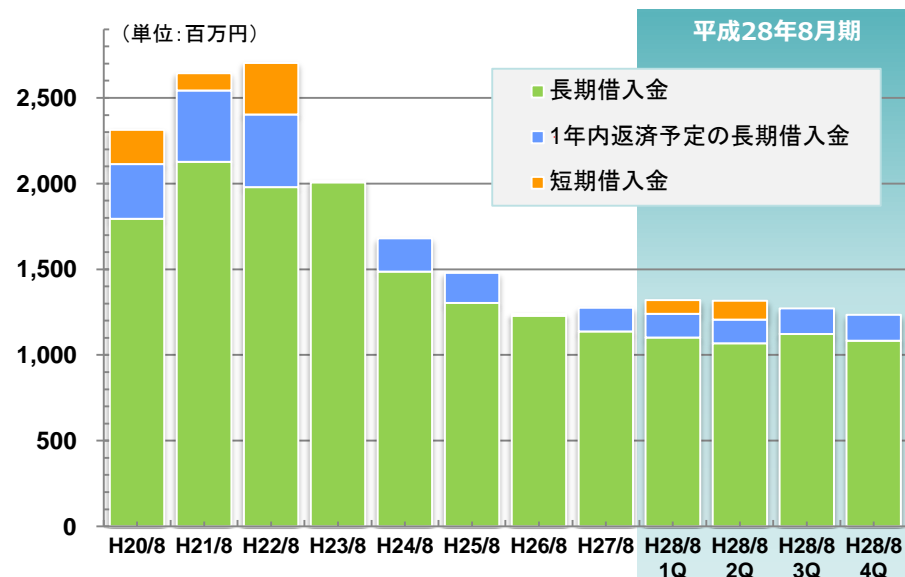
B/S

(単位：百万円)	平成27年8月期 会計年度末	平成28年8月期 会計年度末
流動資産	1,234	1,415
現金及び預金	397	513
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	574	699
たな卸資産	165	163
固定資産	954	1,154
建物・土地	605	632
機械及び装置	271	480
流動負債	333	484
有利子負債（短期）※	138	150
固定負債	1,140	1,106
長期借入金	1,137	1,084
負債合計	1,473	1,590
純資産合計	715	978
総資産	2,188	2,569

※ 有利子負債（短期）：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

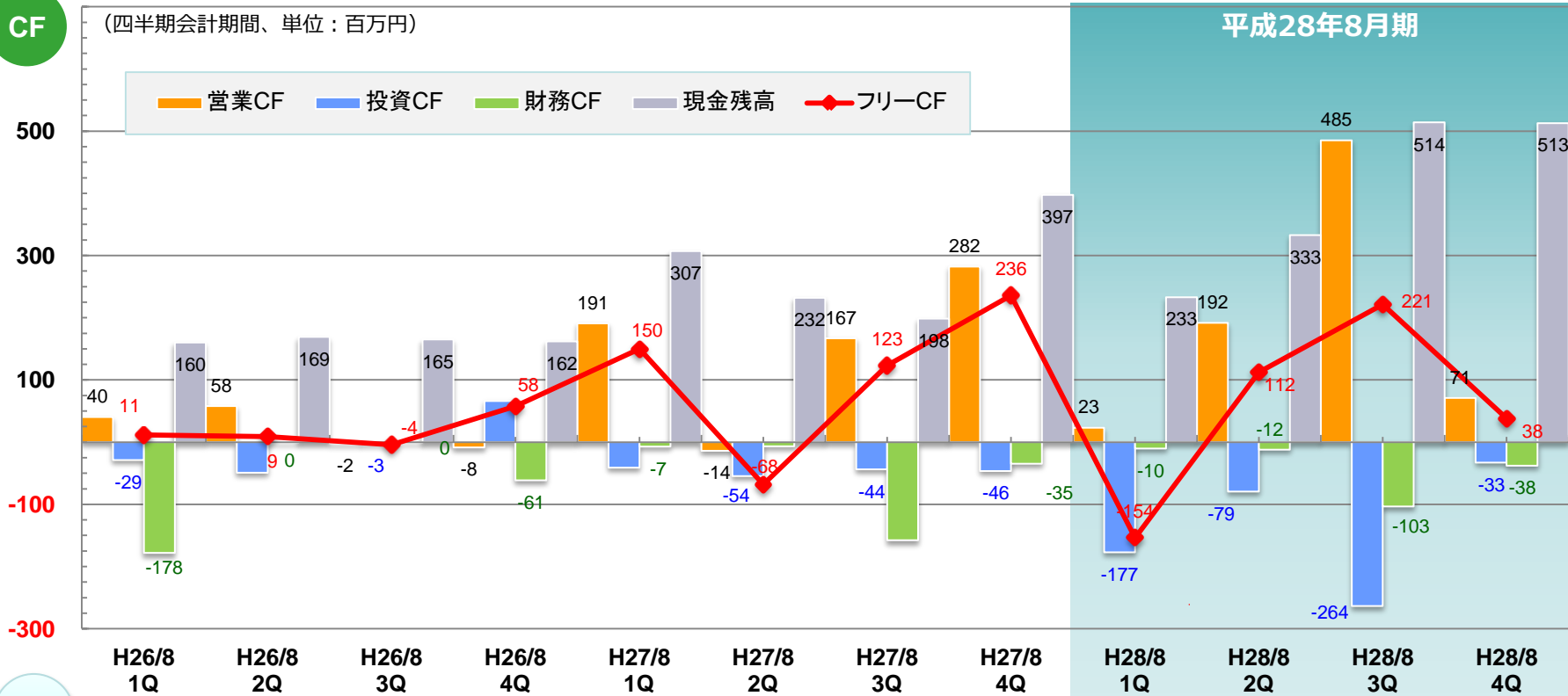
Point

- ① **資産：2,569百万円(前期末比:380百万円増加)**
 - ・現金及び預金：116百万円増加
 - ・売上債権：124百万円増加
 - ・有形固定資産：220百万円増加
- ② **負債：1,590百万円(前期末比:117百万円増加)**
 - ・未払金：85百万円増加
 - ・未払法人税等：77百万円増加
 - ・長期借入金：52百万円減少
- ③ **純資産：978百万円(前期末比:263百万円増加)**
 - ・利益剰余金：263百万円増加
 - ・自己資本比率：32.7%→38.1%



CF分析

CF



Point

① 営業活動によるCF (当期累計) : 556百万円

- 税引前当期純利益 : 550百万円増加
- 減価償却費 : 155百万円増加
- 売上債権の増加 : 122百万円減少
- 仕入債務の減少 : 10百万円減少
- 未払消費税等の減少 : 21百万円減少

② 投資活動によるCF (当期累計) : ▲296百万円

- 有形固定資産の取得による支出 : 294百万円

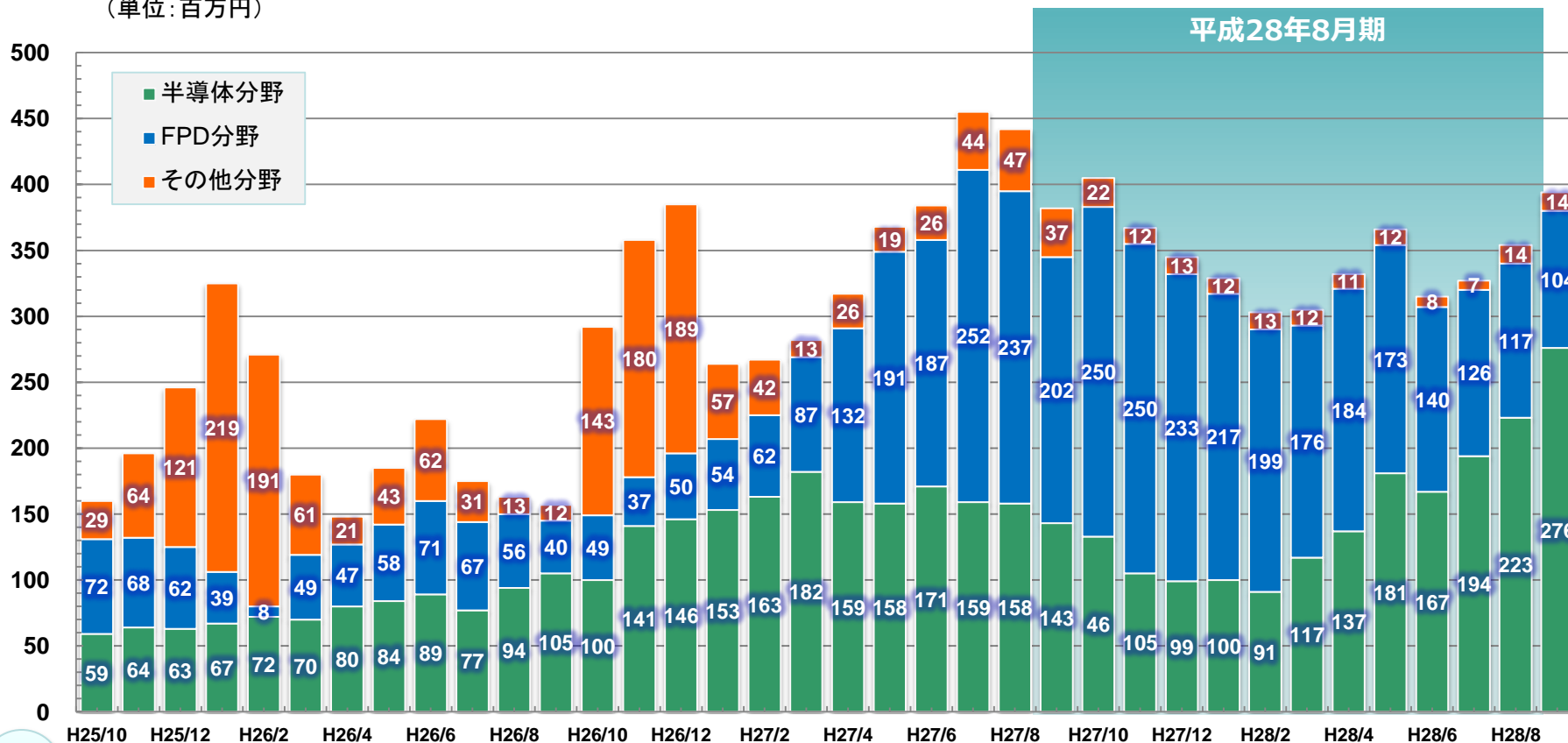
③ 財務活動によるCF (当期累計) : ▲141百万円

- 長期借入れによる収入 : 100百万円
- 長期借入金の返済による支出 : 141百万円
- 配当金の支払額 : 99百万円

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

月次受注残高の推移

(単位:百万円)



Point

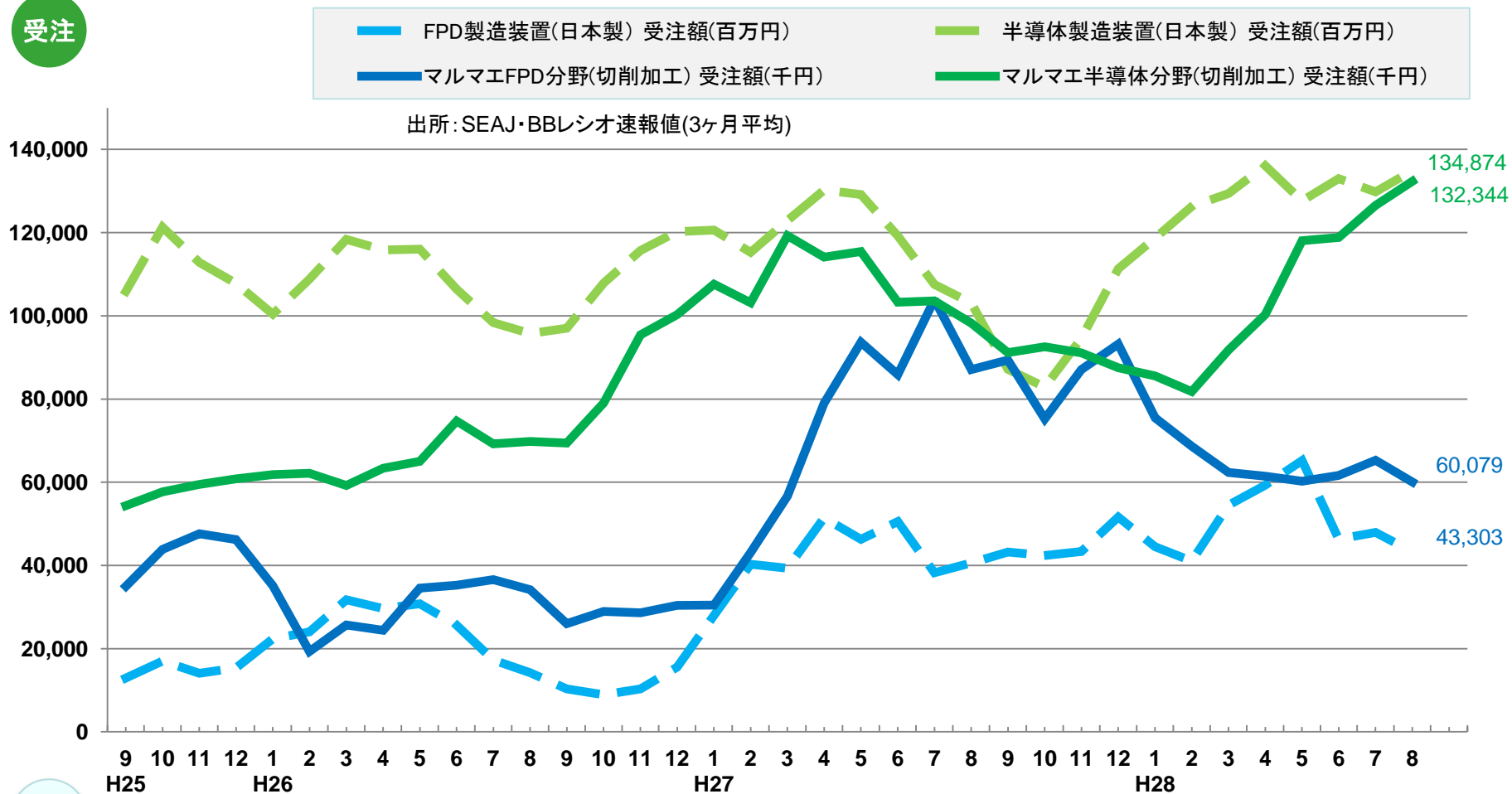
- 半導体分野では、3D NANDの投資拡大により受注残高は過去最高水準を更新。
- FPD分野は、目先受注は一段落も、有機EL向けと第10.5世代大型パネル向けの試作受注増加。
- その他分野は、主だった動きはなし。

※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム (LT) があり、LTの長い案件が多いと売上高に比べ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高に比べ受注残は低めに表れます。(主に半導体はLTが短く、FPDはLTが長めです)

2.事業環境

市場とマルマエの受注動向比較（3ヶ月移動平均数値）

受注



Point

- 半導体分野は、微細化投資に加え3D NAND向けの投資が爆発的に増加している。
- FPD分野では、液晶投資が一段落し次のG10.5待ち。有機ELは増加中。

3.平成29年8月期の業績予想

今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

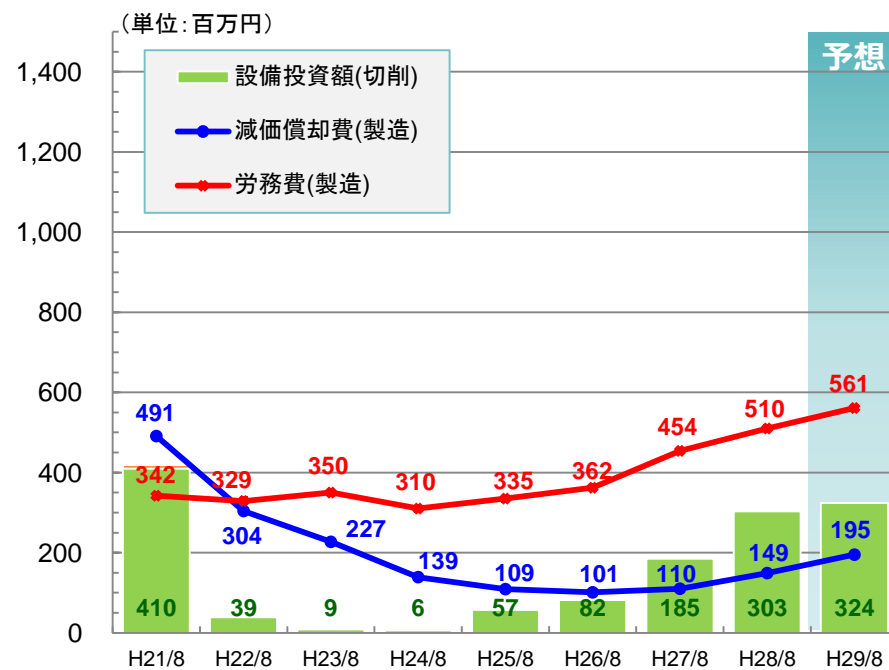
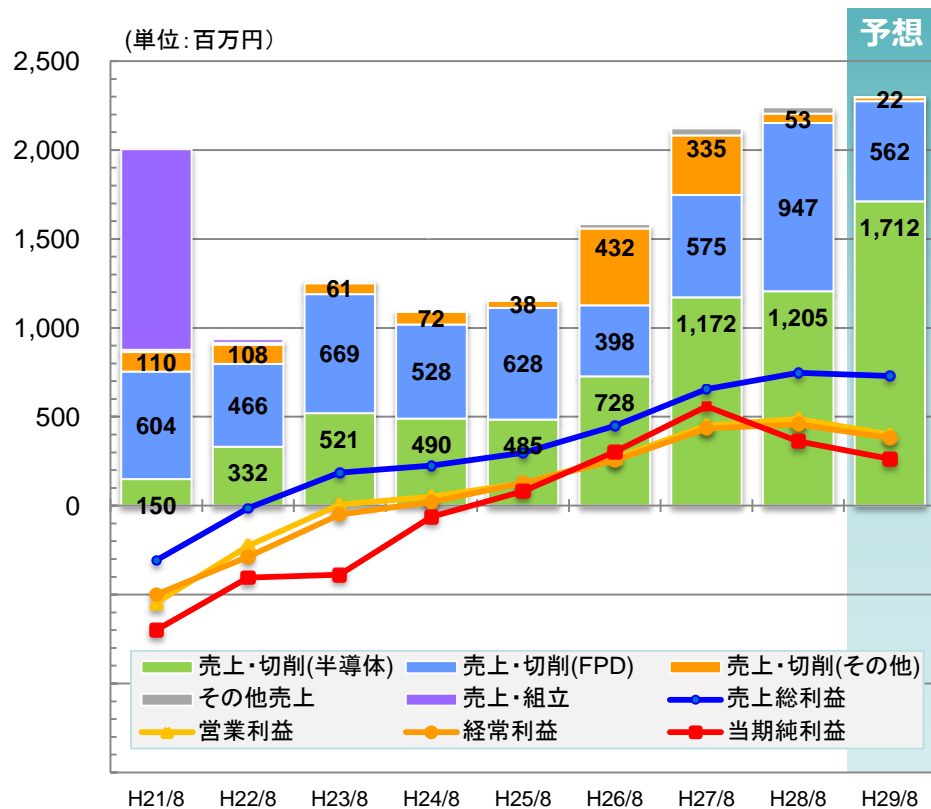
業績
予想

(単位：百万円、1株当たり当期純利益は円)

平成29年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利益	1株当たり 純利益
第2四半期(累計)	1,140	190	180	124	23.67
通期	2,300	400	380	263	49.99

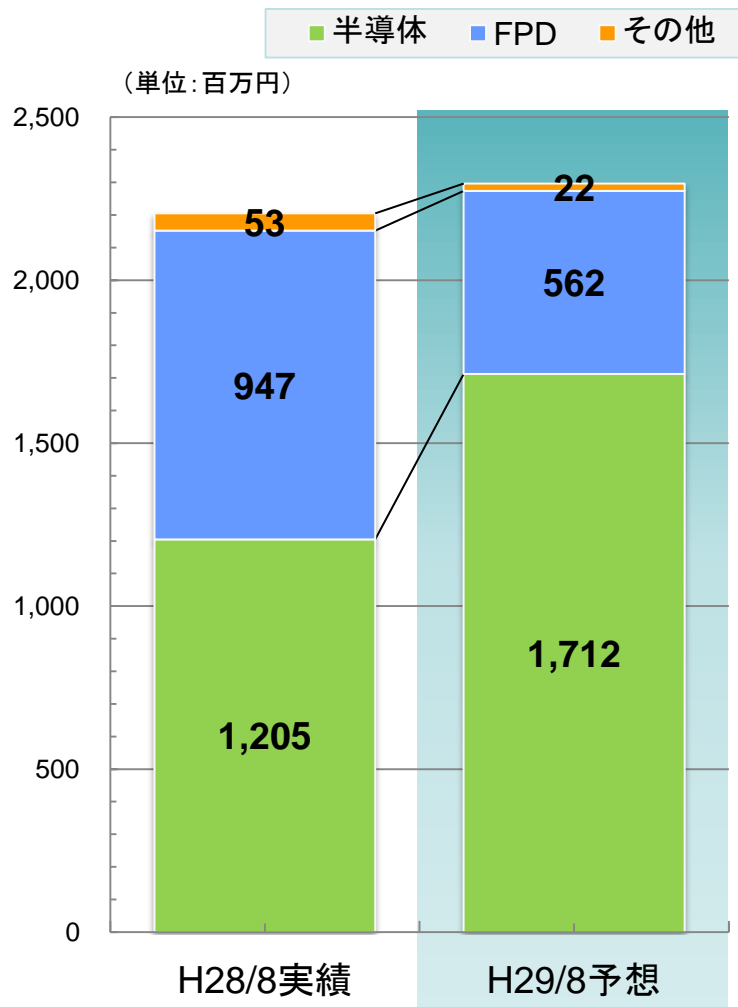
Point

- ✓ 半導体分野は、12億から17億以上へ増加見込
- ✓ FPD分野は約9.5億から5.6億へ減少見込
(顧客受注動向に左右されるため保守的見込)
- ✓ その他分野は、大型案件見込まず暫減
- ✓ 費用面では、市場の急増に対応するために人員増加と減価償却の増加を保守的に見込む



3.平成29年8月期の業績予想

今期の見通し(売上高見込の分野別内訳)



Point

【半導体分野】

- ✓ 3D NAND投資の活況
エッチャー、CVD、塗布、洗浄
幅広い工程で真空パーツ中心に受注
- ✓ ロジック向けの微細化投資も継続

【FPD分野】

- ✓ H29年8月期前半は液晶向けが低調
- ✓ 有機EL向けの受注拡大見込み
- ✓ 液晶向けはG10.5等が第2四半期以降に急回復見込みも、予算は保守的に見込む
(顧客受注に左右されるため)

【その他分野】

- ✓ 確実性の高い案件のみ予算へ反映

新中期事業計画の状況

中期事業計画

中期事業計画の進捗と優先順位

事業分野	目標	進捗等
既存事業	半導体分野の伸長 生産性向上	当初は試作が先行も期後半に急拡大。3D NANDが主因。
M & A	中小を中心にシナジー有り 又は半導体のリスクヘッジ	中小複数案件あるも停滞 市場変更を優先する方針
新分野	作業補助・介護ロボット等	リハビリ装置を優先 鹿児島大学と共同研究
市場変更	期間中に東証一部を目指す	組織の課題等を改善し、着実に行動中

概要

脳卒中・脊損等起因の片麻痺を改善する装置



➤私達が鹿児島大学と共同開発するリハビリ装置は、失われた脳の機能を補うため、新たに脳シナプスを効果的に成長促進させられる事を重点としている。

➤基本的には、鹿児島大学で研究開発が進んでいる「促通反復療法」を応用したリハビリ装置をベースに共同研究し、今後の製品化を目指している。

➤促通反復療法は伸張反射を利用する事で、脳の運動神経の一部が機能しない患者にも有効。

➤ブルンストロームステージでⅡないしⅢからの患者に対応する装置である。また、発症から半年ないし1年が過ぎて、一般的には症状固定と言われる患者にも効果が出やすい。

リハビリというと、筋力を鍛えているイメージがあるが、実際には脳卒中等の後遺症としての片麻痺は、脳機能の一部喪失により、体を動かす信号が正しく出せなくなっている状態である。

このことから、脳卒中起因の片麻痺に対するリハビリは脳機能および神経路の回復が主な目的となる。

リハビリ装置概要

目標

上肢の麻痺に対する複合的リハビリ装置

特徴 1

人によるリハビリより効率的なシナプス再生

特徴 2

脳から運動指令がうまく出せない患者にも有効

特徴 3

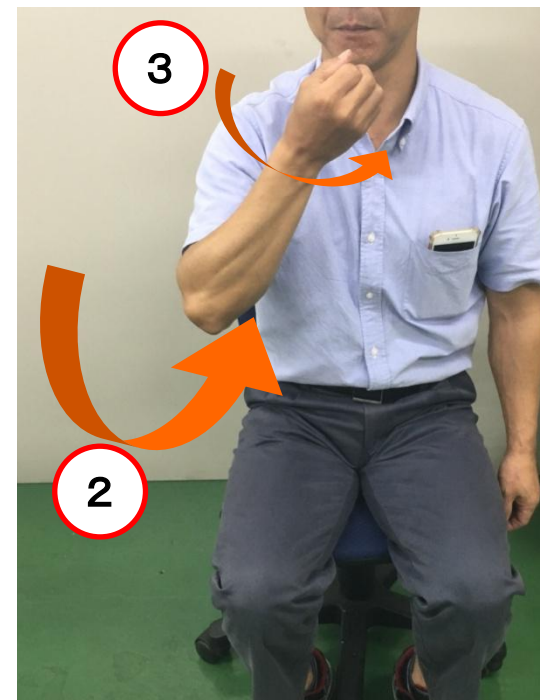
症状固定の患者にも回復可能性有り

特徴 4

場所を選ばないコンパクトな装置を目指す

概要

上肢の麻痺に対する複合的リハビリ装置



肩、ひじ、手首の麻痺に対して、まず第1段階の試作機として、手首の回内回外（図中③部）装置を11月完成に向け製造中

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先
株式会社マルマエ 管理部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-64-2900 FAX 0996-64-2863



Company Profile

企業情報

当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

主要工程

- エッチング
- CVD
- コータ/デベロッパ
- スパッタ
- 枚葉洗浄
- アッシング
- ウエハーボンディング
- イオン注入
- アニール

主要製品

- 真空チャンバー
- シャワーヘッド
- 排気板
- 静電チャック
- ヒーター類
- 上部電極
- ターゲット
- 搬送系パーツ類
- 各種真空パーツ類

※画像はイメージです

総合力で未来を拓く～真空パーツ・マシニング・門型加工の専門メーカー～

会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)	
設立	昭和63年10月	
資本金	1億3585万円 (平成28年8月31日現在)	
役員	代表取締役社長 前田 俊一 専務取締役 山元 弘 取締役 兒島 吉二 取締役 海崎 功太 取締役 寺畑 幸雄 取締役 藤山 敏久 取締役 梶 智和	
従業員数	129名 うち 臨時雇用者等53名 (平成28年8月31日現在)	
所在地	本社 〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41 関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械・精密機器の設計・製造・加工・組立 ・精密機械部品の設計および製作 ・溶接部品の設計製造 ・運送業務 	
経営理念	<ol style="list-style-type: none"> 1.技術は究極を目指し 2.競争と協調を尊び 3.技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>	

大株主 (普通株式)	前田 俊一	2,687,200株
	株式会社マルマエ (自己株)	328,382株
	前田 美佐子	252,000株
	日本トラスティ・サービス 信託銀行	175,000株
	マルマエ共栄会	104,500株
	川本 嘉世子	98,900株
	前田 良子	90,000株
	五十嵐 光栄	84,000株
	齋藤 格	60,000株
	高見 靖治	47,200株

敬称略 平成28年8月31日現在

総合力で未来を拓く -真空パーツ・マシニング・門型加工の専門メーカー-

年月	沿革
昭和40年4月	鉄工所を故前田務（元社長、元相談役）が個人で創業
昭和63年10月	マルマエ工業有限会社（現当社）設立（出資金2,000千円）
平成4年	オートバイ部品製造目的のT'sM'sR&D（現当社事業）を前田俊一（現代表取締役社長）が個人で創業
平成9年9月	T'sM'sR&Dの事業をマルマエ工業有限会社に統合しR&D事業部を設置
平成13年4月	株式会社マルマエに商号及び組織変更（資本金10,000千円）
平成15年12月	鹿児島県出水郡高尾野町（現出水市）に本店移転、本社新工場竣工、大型5面加工機導入
平成16年12月	日本証券業協会によるグリーンシート銘柄指定（証券コード6264）
平成17年12月	本社第2工場竣工
平成18年2月	鹿児島県出水市知識町の旧本社工場再取得（現知識工場）
平成18年12月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
平成19年2月	熊本事業所（熊本県菊池郡大津町）が稼働を開始
平成19年5月	経済産業省発表の2007年度版「元気なモノ作り中小企業300」に選定
平成20年3月	本社第4工場竣工
平成20年4月	関東事業所（埼玉県朝霞市）が稼働を開始
平成23年4月	熊本事業所の閉鎖
平成23年7月	事業再生ADR手続の成立
平成23年8月	A種優先株式の発行
平成27年1月	事業再生ADR手続による事業再生計画の終結

※注 個人事業部分については、月次の確定が困難なため月の記載を省略しております。